

●フラワーハウスAYA <http://www.guam-floweraya.com/>

団塊世代のスイート・シルバーウエディング  
を提唱、新たなビジネスチャンスに



とみえ 山田社長はグアムでフラワーコーディネートとして活躍中

グアムで「フラワーハウスAYA」を経営するとみえ山田社長は、今も自分が花ビジネスを展開しているのが信じられないと静かにほほ笑む。

26年前、結婚でグアムに移住。幸せな妻、母の暮らしのかたわら、ふと習い始めたアートフラワーに魅せられ、気が付くとどっぶり花の道に浸かっていった。アートフラワーの師範課程を卒業するときは、グアムから日本の教室に定期的に通ったという頑張りぶり。真っ赤なバラ、カーネーション、

黄色いキクしかないというグアムの花屋に飽き足らず、自分の好きな花を空輸してもらっていたというこだわりを聞けば、それも当然の帰結だと納得する。

やがて、アートフラワー教室と花屋を開くが、海外ウエディングブームに乗ってグアムで挙式する日本人カップルが増え、ブライダル企業や海外ウエディングのコーディネートをする旅行社などからブーケの注文が続々と入るようになった。

「最近ではインターネットでダイレクトオーダーも増えてきて、平均すると、毎日10本はブーケを作るようになりました」

ブーケの仕事があまりにも忙しくなり、現在は、教室はやむを得ず、休業中だ。

「挙式前日に到着。すぐに打ち合わせをして制作に入るというスケジュールの方が

少なくないのですが、限られた時間と情報の中で、できるだけ花嫁さんが描いていたイメージに近いブーケを完成させるのが私の使命。「こういうのが欲しかったの」と言っていたら、どんな苦勞も吹き飛びます」

根っからの花好きを思わせる言葉だ。

バルーンデコレーターとしての腕も磨き、ときには会場をバルーンのアーチで飾ったり、参列者全員にハート型のバルーンを渡し、式の最後に真っ青な空に向かって放つという演出なども手掛けています。

現在、構想中なのは、団塊の世代のご夫婦のためのスイート・シルバーウエディングプランだという。

「今の団塊世代の女性は心身共に本当にお若いでしょう。お嬢さまの付き添いをなさりながら、私もドレス

を着て、素敵なブーケを持つてみたい」とおっしゃる方がいらつしゃいます」

そこで、結婚式や定年退職を機会にグアム旅行を計画し、旅程に、結婚式パーティー、定年記念パーティーなどを組み込むというプランをまとめ上げた。主役のご夫婦はウエディングドレスとタキシード姿。腕から流れるようなブーケを持ち、参列者ももちろん正装する。あるいは写真撮影だけでなく、女性にとつては生涯の記念になる。

自身がターゲット年代と重なることから、こうした夢を抱く女性は多いはずと自信を見せる。現在、その実現に向けて活動中だ。

FUKUOKA